# 計算科学技術特論B (2016) 第14回

# 大規模MD並列化の技術1

## 名古屋大学 工学研究科 附属計算科学連携教育研究センター 特任講師

安藤嘉倫







- 分子動力学計算を例に、三次元トーラスネットワーク上での 高並列対応ソフトウェアのコーディング技術を紹介
  - → 京コンピュータ, FX10 などで有効な技術
  - →他ソフトにも有効な技術. 講義内容にインスパイアされた並列化 二
  - ードを自作,公表した場合は文献[1]を引用下さい.
- ・MODYLAS<sup>[1]</sup>での実装例をもとに, 並列 (MPI, OpenMP, SIMD) の効率化技術をメインに, 演算の効率化技術について も紹介
- ・コードの詳細には極力立ち入らずコーディング概念を説明
   → 詳細はライセンスに同意の上 www.modylas.org での公開ソースコー ドをダウンロードして確認下さい.

[1] <u>Y.Andoh</u>, N.Yoshii, K. Fujimoto, K.Mizutani, H.Kojima, A.Yamada, S.Okazaki, K.Kawaguchi, H.Nagao, K.Iwahashi, F. Mizutani, K.Minami, S. Ichikawa, H.Komatsu, S. Ishizuki, Y.Takeda, and M.Fukushima, *J. Chem. Theory Comput.*, **9**, 3201 (2013).





- ・分子動力学 (MD) 法
- ・分子動力学計算の並列化特性
- ・並列化技術1 データ構造
- ・並列化技術2 MPI
- ・並列化技術 3 OpenMP, SIMD



第一回



#### ニュートンの運動方程式



時間に対する座標の二階常微分方程式

$$N = 6$$

*t*:時刻

**r**<sub>i</sub>:原子 i の座標

*m<sub>i</sub>*:原子 *i* の質量

**F**<sub>i</sub>: 原子 *i* に作用する力

 $\Phi(\mathbf{r}^N)$ :系のポテンシャルエネルギー

N:系に含まれる原子数



## 分子動力学法(2) 運動方程式の数値積分



術特論B 第14回



## 分子動力学法(3) 座標に対する境界条件

・周期境界条件

計算科学技術特論B 第14回

6 /74



・自由境界条件

真空中での孤立系 (NVE)

## 分子動力学法(4) 原子間相互作用

各項は以降のスライド参照

$$\begin{split} \varPhi(\mathbf{r}^{N}) &= \sum_{bonds} K_{b} (b(\mathbf{r}_{i}, \mathbf{r}_{j}) - b_{0})^{2} + \sum_{angles} K_{\theta} (\theta(\mathbf{r}_{i}, \mathbf{r}_{j}, \mathbf{r}_{k}) - \theta_{0})^{2} \\ &+ \sum_{dihedrals} K_{\phi} \Big[ 1 + \cos(n\phi(\mathbf{r}_{i}, \mathbf{r}_{j}, \mathbf{r}_{k}, \mathbf{r}_{l}) - \delta) \Big] + \sum_{impropers} K_{\psi} (\psi(\mathbf{r}_{i}, \mathbf{r}_{j}, \mathbf{r}_{k}, \mathbf{r}_{l}) - \psi_{0})^{2} \\ &+ \sum_{nonbonds} \Bigg[ 4\varepsilon \Bigg\{ \left( \frac{\sigma}{r(\mathbf{r}_{i}, \mathbf{r}_{j})} \right)^{12} - \left( \frac{\sigma}{r(\mathbf{r}_{i}, \mathbf{r}_{j})} \right)^{6} \Bigg\} + \frac{q_{i}q_{j}}{r(\mathbf{r}_{i}, \mathbf{r}_{j})} \Bigg] \\ &\text{Lennard-Jones} \qquad \text{Coulomb} \end{split}$$

<u>計算科</u>学技術特論B 第14回

$$m_i \frac{d^2 \boldsymbol{r}_i}{dt^2} = \boldsymbol{F}_i = -\frac{\partial}{\partial \boldsymbol{r}_i} \boldsymbol{\Phi}(\boldsymbol{r}^N)$$

## 分子動力学法(4) 原子間相互作用

**古典分子動力学法** 古典近似された原子間相互作用関数 (力場) *Φ*(*r<sup>N</sup>*)



計算科学技術特論B 第14回

分子内 (intra-molecule, bonded) 相互作用 + 分子間 (inter-molecule, nonbonded) 相互作用

# 分子動力学法(5) 分子内 bonded 相互作用



```
K_{\theta}(\theta(\mathbf{r}_i,\mathbf{r}_j,\mathbf{r}_k)-\theta_0)^2
```





科学技術特論B 第14回

9 /7

コーディングイメージ

do n=1,nbonds b=b(ri, rj)  $\phi_{bond,ij}$ の計算  $\phi_{bond} = \phi_{bond} + \phi_{bond,ij}$ Fi, Fj の計算 f(i)=f(i)+Fi f(j)=f(j)+Fj enddo do n=1,nangles theta=thteta(ri, rj, rk)  $\phi_{angle,ijk}$ の計算  $\phi_{angle}=\phi_{angle}+\phi_{angle,ijk}$ Fi, Fj, Fk の計算 f(i)=f(i)+Fi f(j)=f(j)+Fj f(k)=f(k)+Fk enddo do n=1,ndihedrals phi=phi(ri, rj, rk, rl)  $\phi_{dihedral,ijkl}$ の計算  $\phi_{dihedral}=\phi_{dihedral}+\phi_{dihedral,ijkl}$ Fi, Fj, Fk, FIの計算 f(i)=f(i)+Fi f(j)=f(j)+Fj f(k)=f(k)+Fk f(l)=f(l)+Fl enddo do n=1,nimpropers psi=psi(ri, rj, rk, rl)  $\phi_{improper,ijkl}$ の計算  $\phi_{improper}=\phi_{improper}+\phi_{improper,ijkl}$ Fi, Fj, Fk, Fl の計算 f(i)=f(i)+Fi f(j)=f(j)+Fj f(k)=f(k)+Fk f(l)=f(l)+Fl enddo

計算科学技術特論B 第14回

## 分子動力学法(6) 分子内・分子間 nonbonded 相互作甩

nonbonded = Lennard-Jones(LJ) + Coulomb(CL)

$$4\varepsilon \left\{ \left( \frac{\sigma}{r(\boldsymbol{r}_i, \boldsymbol{r}_j)} \right)^{12} - \left( \frac{\sigma}{r(\boldsymbol{r}_i, \boldsymbol{r}_j)} \right)^{6} \right\} \qquad \frac{q_i q_j}{r(\boldsymbol{r}_i, \boldsymbol{r}_j)}$$

$$r(\mathbf{r}_{i},\mathbf{r}_{j}) = \sqrt{(x_{i} - x_{j})^{2} + (y_{i} - y_{j})^{2} + (z_{i} - z_{j})^{2}}$$



コーディングイメージ

分子間

do imol=1,nmol-1 do jmol=imol+1,nmol do i=1,natom(imol) do j=1,natom(jmol) rij=rij(ri, rj)  $\phi_{ii}$ の計算  $\phi_{nonbond} = \phi_{nonbond} + \phi_{ij}$ Fi, Fj の計算 f(i)=f(i)+Fif(j)=f(j)+Fjenddo enddo enddo enddo

### 分子内

```
do imol=1,nmol
do i=1,natom(imol)-1
do j=i+1,natom(imol)
  rij=rij(ri, rj)
       0 if 1-2,-3 void
 x = -\frac{1}{s} if 1-4 scale
        1 else
  \phi_{ij}の計算
  \phi_{nonbond} = \phi_{nonbond} + \mathbf{X}^* \phi_{ij}
  Fi, Fj の計算
  f(i)=f(i)+x*Fi
  f(j)=f(j)+x*Fj
enddo
enddo
enddo
```

分子内 nonbond 項計算の注意点:

- ・1番目および2番目の隣接原子とは相互作用しない (1-2, 1-3 void)
- •3番目の隣接原子との相互作用は因子 s でスケールする (1-4 scale) [s は LJ, Coulomb べつ]
- ・4番目以降の隣接原子とは通常の相互作用

# 分子動力学法(7) U相互作用のカットオフ



計算科学技術特論B 第14回

### 計算科学技術特論B 第14回 分子動力学法(7) LJ相互作用のカットオフ

・分子系での留意事項



do imol=1,nmol-1 do jmol=imol+1,nmol do i=1,natom(imol) do j=1,natom(jmol) rij=rij(ri, rj) if(rij > rcut) cycle  $\phi_{ij}$ の計算  $\phi_{nonbond} = \phi_{nonbond} + \phi_{ij}$ Fi, Fj の計算 f(i)=f(i)+Fif(j)=f(j)+Fjenddo enddo enddo enddo





計算科学技術特論B 第14回



## カットオフしない Coulomb 相互作用の計算法

- ・自由境界条件下
  - すべての *i*, *j* 原子対を計算
  - 多重極展開法,および高速多重極展開法 (FMM)
- ・周期境界条件下

Ewald 法

Particle Mesh Ewald (PME) 法

FMM + 多重極子のEwald法 <

## \_\_\_\_\_今回の講義ではこれの \_\_\_\_\_並列化を説明

FMM:

方法論の詳細は「CMSI計算科学技術特論A」 古典分子動力学法の高速化 (吉井) を参照

🗌 : レベル0

# $l = L/2^{n}$ 基本セル $\leftrightarrow$ L 被相互作用点の 含まれるサブセル

計算科学技術特論B 第14回

15 /7

FMM での階層的セル分割

- ・基本セルは<u>立方体</u> (一辺 *L*)
- ・各辺を 2<sup>n</sup>回に等分割

本講義では簡単のためこの2つを前提

用語の定義:

**サブセル**: レベル0の分割セル (一辺 *l = L/2<sup>n</sup>*)

<mark>スーパーセル</mark>: レベル*m*の分割セル (一辺 *l*×2<sup>m</sup>)

系には計8<sup>n</sup>個のサブセル, レベル*m*には 8<sup>n-m</sup>個のスーパーセル.

## FMM での階層的セル分割

- ・基本セルは<u>立方体</u> (一辺 *L*)
- ・各辺を 2<sup>n</sup>回に等分割

本講義では簡単のためこの2つを前提

#### 用語の定義:

**サブセル**: レベル0の分割セル (一辺 *l = L/2<sup>n</sup>*)

<mark>スーパーセル</mark>: レベル*m*の分割セル (一辺 *l*×2<sup>m</sup>)

系には計8<sup>n</sup>個のサブセル, レベル*m*には 8<sup>n-m</sup>個のスーパーセル. サブセルは*m*=0のスーパーセル



計算科学技術特論B 第14回



計算科学技術特論B 第14回

計算科学技術特論B 第14回

# 分子動力学法(8) Coulomb 相互作用



## 相互作用計算の要点

#### レベルΟ

- ・近傍サブセルに含まれる点電荷 との **p2p**
- ・サブセルAとの M2L
- ・点電荷への局所展開 L2p

#### <u>レベル1</u>

・スーパーセルBとのM2L, L2L

…以下同様 (入れ子構造)

#### <u>最上レベル</u>

・多重極子のEwald法, L2L

入れ子構造により,

周期境界条件下では各レベル 10<sup>3</sup>-5<sup>3</sup> = 875 個のスーパーセル とM2L



■: レベル0 ■: レベル1 ■: レベル2 ■: レベル3 ■: レベル4 =: 粒子-粒子相互作用を計算

## 分子動力学計算の並列化特性(1)

## MD 計算の処理フロー



計算科学技術特論B 第14回

## 分子動力学計算の並列化特性(1)

MD 計算の処理フロー



計算科学技術特論B 第14回

### 計算科学技術特論B 第14回 分子動力学計算の並列化特性(2) プロセス分割 21/74



do istep=1,Nstep do i=1, N ポテンシャルの計算 力の計算 enddo

座標・速度更新 力学・熱力学量計算 enddo



# 分子動力学計算の並列化特性(2) プロセス分割 22 /74



#### 最も単純な MPI 並列化:

do istep=1,Nstep do i=1+myrank, N, nprocs ポテンシャルの計算 力の計算 enddo

```
call mpi_allreduce(ポテンシャル, 力)
```

<u> 巫</u> 標・	・速度更新
坐標 ·	・速度史新

力学•熱力学量計算

enddo

myrank:MPIプロセス番号 (0始まり) nprocs:MPIプロセス数



### 計算科学技術特論B 第14回 分子動力学計算の並列化特性(2) プロセス分割 23 /74



空間ドメイン分割による MPI 並列化:

①基本セルを各辺にそって分割



# 分子動力学計算の並列化特性(2) プロセス分割 24 /74



空間ドメイン分割による MPI 並列化:

①基本セルを各辺にそって分割

②複数のサブセルを各プロセスに 均等割り当て



# 分子動力学計算の並列化特性(2) プロセス分割 25 /74



空間ドメイン分割による MPI 並列化:

①基本セルを各辺にそって分割

②複数のサブセルを各プロセスに 均等割り当て

③ myrank の所持するサブセル内 原子と近傍 other ranks の所持す るサブセル内原子との間で粒子対 型の相互作用計算



# 分子動力学計算の並列化特性(2) プロセス分割 26 /74



空間ドメイン分割による MPI 並列化:

コーディングイメージ

do icell(myrank) do jcell\_list(myrank or otherranks) ポテンシャルの計算 力の計算 enddo 座標・速度更新 力学・熱力学量計算 enddo



# 分子動力学計算の並列化特性(2) プロセス分割 27 /74



空間ドメイン分割による MPI 並列化:

コーディングイメージ

do icell(myrank) do jcell\_list(myrank or otherranks) ポテンシャルの計算 -力の計算 enddo \_ 座標・速度更新 力学・熱力学量計算 -



### 計算科学技術特論B 第14回 分子動力学計算の並列化特性(2) プロセス分割 28 /74



#### 空間ドメイン分割による MPI 並列化:

ノード形状とプロセス形状と を一致させることを前提に, トーラスネットワークとの相 性が非常に良い





### 計算科学技術特論B 第14回 分子動力学計算の並列化特性(3)通信パターン 30/74



例) プロセスあたり 4 サブセル

計算科学技術特論B 第14回 分子動力学計算の並列化特性(3)通信パターン 31/74

通信①(隣接)

分子内力,分子間力の計算に必要 な相手原子座標  $r_i, r_k, r_l$ の通信.

#### 特徴:

・近傍プロセスとのみ通信
 ・データサイズは小さい
 例) 40 原子/サブセル では,
 8 byte(real\*8)\*3(xyz)\*40
 = 1 KB/サブセル

#### 注意点:

- r<sub>cut</sub>≤n\*l [今回の講義では n=2]
- ・分子内結合原子 (特に dihedral) を通信範囲内に収める



分子動力学計算の並列化特性(3)通信パターン 32.74

分子内力,分子間力の計算に必要 な相手原子座標  $r_i, r_k, r_l$ の通信.

通信①(隣接)

#### 特徴:

・近傍プロセスとのみ通信
 ・データサイズは小さい
 例) 40 原子/サブセル では,
 8 byte(real\*8)\*3(xyz)\*40
 = 1 KB/サブセル

#### 注意点:

- r<sub>cut</sub>≤n\*l [今回の講義では n=2]
- ・分子内結合原子 (特に dihedral) を通信範囲内に収める
- ・周期境界条件による折り返し



計算科学技術特論B 第14回

### 計算科学技術特論B第14回 分子動力学計算の並列化特性(3)通信パターン 33 /74

レベル 0

通信②(隣接・近接)

多極子情報の通信 M2M: 周辺 8 スーパーセル M2L: 周辺 875 スーパーセル

#### 特徴:

- ・通信対象範囲が階層ごと異なる. 上位階層ほど遠方.
- ・データサイズ 例) nmax=4 では

16 byte(complex\*8)\*(4+1)<sup>2</sup> = 0.4 KB/スーパーセル 階層ごと875\*0.4KB=320KB



### 計算科学技術特論B 第14回 分子動力学計算の並列化特性(3)通信パターン 34 /74

レベル 0

通信②(隣接・近接)

多極子情報の通信 M2M: 周辺 8 スーパーセル M2L: 周辺 875 スーパーセル

#### 特徴:

- ・通信対象範囲が階層ごと異なる. 上位階層ほど遠方.
- ・データサイズ 例) nmax=4 では
  - 16 byte(complex\*8)\*(4+1)<sup>2</sup> = 0.4 KB/スーパーセル 階層ごと875\*0.4KB=320KB



#### 計算科学技術特論B第14回 分子動力学計算の並列化特性(3)通信パターン 35 /74

通信②(隣接・近接)

多極子情報の通信 M2M: 周辺 8 スーパーセル M2L: 周辺 875 スーパーセル

#### 特徴:

- ・通信対象範囲が階層ごと異なる. 上位階層ほど遠方.
- ・データサイズ 例) nmax=4 では

16 byte(complex\*8)\*(4+1)<sup>2</sup> = 0.4 KB/スーパーセル 階層ごと875\*0.4KB=320KB

注意

プロセス内自セル位置 <u>⊭</u> (0,0), (1,0), (0,1), (1,1)

レベル 🚺



### 計算科学技術特論B 第14回 分子動力学計算の並列化特性(3)通信パターン 36 /74

レベル 0

プロセス内自セル位置 (0,0), <mark>(1,0), (0,1), (1,1)</mark>

多極子情報の通信 M2M: 周辺 8 スーパーセル M2L : 周辺 875 スーパーセル

#### 特徴:

- ・通信対象範囲が階層ごと異なる. 上位階層ほど遠方.
- ・データサイズ 例) nmax=4 では

16 byte(complex\*8)\*(4+1)<sup>2</sup> = 0.4 KB/スーパーセル 階層ごと875\*0.4KB=320KB


## 計算科学技術特論B第14回 分子動力学計算の並列化特性(3)通信パターン 37 /74

通信②(隣接・近接)

レベル 0

プロセス内自セル位置 (0,0), (1,0), (0,1), (1,1)

多極子情報の通信 M2M: 周辺 8 スーパーセル M2L : 周辺 875 スーパーセル

#### 特徴:

- ・通信対象範囲が階層ごと異なる. 上位階層ほど遠方.
- ・データサイズ 例) nmax=4 では



## 計算科学技術特論B第14回 分子動力学計算の並列化特性(3)通信パターン 38 /74

レベル 0

プロセス内自セル位置 (0,0), (1,0), (0,1), (1,1)

多極子情報の通信 M2M: 周辺 8 スーパーセル M2L : 周辺 875 スーパーセル

#### 特徴:

- ・通信対象範囲が階層ごと異なる. 上位階層ほど遠方.
- ・データサイズ 例) nmax=4 では



## 計算科学技術特論B 第14回 分子動力学計算の並列化特性(3)通信パターン 39 /74

通信②(隣接・近接)

レベル 0

プロセス内自セル位置 (0,0), (1,0), (0,1), (1,1)

多極子情報の通信 M2M: 周辺 8 スーパーセル M2L : 周辺 875 スーパーセル

#### 特徴:

- ・通信対象範囲が階層ごと異なる. 上位階層ほど遠方.
- ・データサイズ 例) nmax=4 では



## 計算科学技術特論B 第14回 分子動力学計算の並列化特性(3)通信パターン 40 /74

レベル 1

通信②(隣接・近接)

多極子情報の通信 M2M: 周辺 8 スーパーセル M2L: 周辺 875 スーパーセル

#### 特徴:

- ・通信対象範囲が階層ごと異なる. 上位階層ほど遠方.
- ・データサイズ 例) nmax=4 では



## 計算科学技術特論B 第14回 分子動力学計算の並列化特性(3)通信パターン 41/74

多極子情報の通信 M2M: 周辺 8 スーパーセル M2L : 周辺 875 スーパーセル

#### 特徴:

- ・通信対象範囲が階層ごと異なる. 上位階層ほど遠方.
- ・データサイズ 例) nmax=4 では



## 計算科学技術特論B 第14回 分子動力学計算の並列化特性(3)通信パターン 42 /74

## 通信②(隣接・近接)

多極子情報の通信 M2M: 周辺 8 スーパーセル M2L : 周辺 875 スーパーセル

#### 特徴:

- ・通信対象範囲が階層ごと異なる. 上位階層ほど遠方.
- ・データサイズ 例) nmax=4 では



## 計算科学技術特論B 第14回 分子動力学計算の並列化特性(3)通信パターン 43 /74

## 通信②(隣接・近接)

多極子情報の通信 M2M: 周辺 8 スーパーセル M2L : 周辺 875 スーパーセル

#### 特徴:

- ・通信対象範囲が階層ごと異なる. 上位階層ほど遠方.
- ・データサイズ
  例) nmax=4 では
  16 byte(complex\*8)\*(4+1)<sup>2</sup>
  = 0.4 KB/スーパーセル
  階層ごと875\*0.4KB=320KB

#### 注意点 (上位階層):

・軸ごとrank参照範囲が異なる 右の例では, x方向 -4 ~ +5 y方向 -4 ~ +5



## 計算科学技術特論B 第14回 分子動力学計算の並列化特性(3)通信パターン 44 /74

## 通信②(隣接・近接)

多極子情報の通信 M2M: 周辺 8 スーパーセル M2L : 周辺 875 スーパーセル

#### 特徴:

- ・通信対象範囲が階層ごと異なる. 上位階層ほど遠方.
- ・データサイズ
  例) nmax=4 では
  16 byte(complex\*8)\*(4+1)<sup>2</sup>
  = 0.4 KB/スーパーセル
- 階層ごと875\*0.4KB=320KB

#### 注意点 (上位階層):

・軸ごとrank参照範囲が異なる 右の例では, x方向 -5 ~ +4 y方向 -4 ~ +5



レベル1

## 計算科学技術特論B第14回 分子動力学計算の並列化特性(3)通信パターン45/74

通信②(隣接・近接)

多極子情報の通信 M2M: 周辺 8 スーパーセル M2L : 周辺 875 スーパーセル

#### 特徴:

- ・通信対象範囲が階層ごと異なる 上位階層ほど遠方.
- ・データサイズ
  例) nmax=4 では
  16 byte(complex\*8)\*(4+1)<sup>2</sup>
  = 0.4 KB/スーパーセル

階層ごと875\*0.4KB=320KB

#### 注意点:

- ・軸ごとrank参照範囲が異なる
- ・周期境界条件による折り返し



## 計算科学技術特論B 第14回 分子動力学計算の並列化特性(3)通信パターン 46 /74

通信③(隣接)

運動方程式の数値積分の結果,原子 が移動.これを各プロセスに再帰属 させるための座標通信.

#### 特徴:

- ・最近接 3<sup>3</sup>-1=26 プロセスと通信
- ・データサイズは非常に小さい
- myrank から出る粒子, myrank に 入ってくる粒子, 両方ある



## 計算科学技術特論B 第14回 分子動力学計算の並列化特性(3)通信パターン 47 /74

通信③(隣接)

運動方程式の数値積分の結果,原子 が移動.これを各プロセスに再帰属 させるための座標通信.

#### 特徴:

- ・最近接 3<sup>3</sup>-1=26 プロセスと通信
- ・データサイズは非常に小さい
- ・myrank から出る粒子, myrank に 入ってくる粒子, 両方ある

#### 注意点:

• x, y, z 軸方向への移動に加え,
 斜め方向への移動が発生



### 計算科学技術特論B 第14回 分子動力学計算の並列化特性(3)通信パターン 48 /74

通信③(隣接)

運動方程式の数値積分の結果,原子 が移動.これを各プロセスに再帰属 させるための座標通信.

#### 特徴:

- ・最近接 3<sup>3</sup>-1=26 プロセスと通信
- ・データサイズは非常に小さい
- ・myrank から出る粒子, myrank に 入ってくる粒子, 両方ある

#### 注意点:

- x, y, z 軸方向への移動に加え,
  斜め方向への移動が発生
- ・周期境界条件による折り返し



## 

通信④(全ノード間・総和型)

系全体での量(ハミルトニアン,温度,圧力 など)を計算するための通信

#### 特徴:

- ・データサイズは, real\*8 の1変数
- ・全プロセス間で総和をとる (allreduce)

→ハードウェア機能の利用で高速化

例えば, 京の TBI (Tofu barrier interface)

~10,000ノード reduce 演算 10 µs 安島ら, FUJITSU. 63, 3, p. 260-264(05, 2012)

例)運動エネルギー



計算科学技術特論B 第14回

call mpi\_allreduce(wk\_kene,kene,1, mpi\_double\_precision,mpi\_sum, mpi\_comm\_world,ierr)

# 分子動力学計算の並列化特性(3)通信パターン 50 /74

通信④(全ノード間・総和型)

系全体での量(ハミルトニアン, 温度, 圧力 など)を計算するための通信

#### 特徴:

- ・データサイズは, real\*8の1変数
- ・全プロセス間で総和をとる (allreduce)

→ハードウェア機能の利用で高速化

例えば, 京の TBI (Tofu barrier interface) ~10,000ノード reduce 演算 10 µs <sub>安島ら, FUJITSU. 63, 3, p. 260-264(05, 2012)</sub>

#### 注意点:

rank 間での二重カウント
 特にポテンシャルエネルギーとビリアル

例) 運動エネルギー



call mpi\_allreduce(wk\_kene,kene,1, mpi\_double\_precision,mpi\_sum, mpi\_comm\_world,ierr)







- ・分子動力学 (MD) 法
- ・分子動力学計算の並列化特性
- ・並列化技術1 データ構造
- ・並列化技術2 MPI
- ・並列化技術 3 OpenMP, SIMD



第一回

# CMSI配信講義B 第10回

## データ構造: MPI 並列性能 (および演算性能) に直結

MD 計算のように 1 サイクル当たりの経過時間が小さい [≤ O(10<sup>-3</sup> sec)] 場合 に特に重要.

システムが大規模・複雑化する将来,アプリによらず重要になる (?).



ノードA

ノードB

[理想] プログラムを書く前に, ネットワーク構造に最適なデータ構造を考案する [現実] 途中で問題に直面して, 既存のプログラムをイチから書き直す

## MPI 並列化技術: データ構造 [1] 座標



計算科学技術特論B 第14回



#### 転送された座標データの格納形態



54 /74



## MPI 並列化技術: データ構造 [1] 座標



計算科学技術特論B 第14回

56 /74

*π* 



計算科学技術特論B 第14回

## メタデータ管理配列

サブセルの先頭原子番号: allocate( tag(1:5,1:5) )

サブセルの格納原子数: allocate( na\_per\_cell(1:5,1:5) )

#### データへのアクセス方法

myrank所持データ: tag(3,3) ~ tag(3,3)+na\_per\_cell(3,3)-1

#### MPI並列化技術:データ構造 [1] 座標 58/74



#### 転送された座標データの格納形態



## MPI 並列化技術: データ構造 [1] 座標

#### 転送された座標データの格納形態



計算科学技術特論B 第14回

59 /74

メタデータ構造

#### 計算科学技術特論B 第14回 MPI 並列化技術: データ構造 [1] 座標

#### 転送された座標データの格納形態



60 /74

<u>メタデ</u>ータ構造



tag(3,3) ~ tag(3,3)+na\_per\_cell(

帯の部分のデータ

- tag(1,5) ~ tag(5,5)+na\_per\_cell(5,5)-1
- tag(1,

tag(

tag(1,2) ~

tag(1,1) ~

tag(5,3)+na\_per\_cell(5,3)-1

tag(5,2)+na\_per\_cell(5,2)-1

tag(5,1)+na\_per\_cell(5,1)-1

$$(4) \sim$$





例) 40原子x5サブセル=200原子 (5KB) → L1キャッシュ(~32KB)に乗り, かつSIMD並列に十分な長さ





na\_per\_cell(5,1)

#### 下位階層の多極子

## 下位の定義:「M2L範囲 < スーパーセル分割数」 10 < 16</p>

レベル0

allocate( wm0(:,16,16) )

レベル0





#### 下位階層の多極子

allocate( wm0(:,16,16) )



レベル0

## 下位階層の多極子

allocate( wm0(:,16,16) )

レベル0



#### 配列を袖部付きで局所化

allocate( wm\_local0(:,10,10) ) x方向: 10=4+2+4 y方向: 10=4+2+4



レベル0でのM2M, M2L演算に必要な データ範囲

レベル0

#### 下位階層の多極子

(X,Y): セルの番地

allocate( wm\_local0(:,10,10) )

## データへのアクセス方法

#### myrank所持データ:

wm\_local0(1:(nmax+1)<sup>2</sup>,5,5) wm\_local0(1:(nmax+1)<sup>2</sup>,6,5) wm\_local0(1:(nmax+1)<sup>2</sup>,5,6) wm\_local0(1:(nmax+1)<sup>2</sup>,6,6)

注)多極子にはもともとスーパーセル の相対配置情報が含まれているため、メ タデータ管理配列は要らない (=厳密にはメタデータ構造ではない)

(10,1)	1					(	10,10
			(5,6)	(6,6)			
			(5,5)	(6,5)			
		myı	'ank∄	「持デ	ータ		
(1,1)							(10,1)

#### 下位階層の多極子

(X,Y): セルの番地

全範囲に連続アクセス

allocate( wm\_local0(:,10,10) )

(10,1)	Y軸	方向, 亻	₫ラン	クから	の転込	Ĕデー	タ	(	10,10
	Y軸	方向, 伯	₫ラン	クから	の転込	きデー	9		
	X軸 -ラン	5向, 作 <del>クから</del>	捜 の	(5,6)	(6,6)		X軸フ ー <del>ラン</del>	5向, 他 <del>クから</del>	<u>፱</u> ወ
	転送	データ	7	(5,5)	(6,5)		転送	データ	
	Y軸;	方向,伯	<b>セ</b> ラン	クから	の転込	きデー	タ 		
			1 = .		- +->		<u></u>		
	Y軸;	5向,作	<b>セ</b> ラン	クから	の転i	<b>を</b> デー	9		
(1,1)									(10,1)

Х

## データへのアクセス方法

### myrank所持データ:

wm\_local0(1:(nmax+1)<sup>2</sup>,5,5) wm\_local0(1:(nmax+1)<sup>2</sup>,6,5) wm\_local0(1:(nmax+1)<sup>2</sup>,5,6) wm\_local0(1:(nmax+1)<sup>2</sup>,6,6)

x,y軸方向転送



## other ranks所持データ:

 $wm_local0(1:(nmax+1)^2,1:10,9:10)$  $wm_local0(1:(nmax+1)^2,1:10,7:8)$  $wm_local0(1:(nmax+1)^2,1:10,5:6)$  $wm_local0(1:(nmax+1)^2,1:10,3:4)$  $wm_local0(1:(nmax+1)^2,1:10,1:2) \\$ 

## 上位の定義:「M2L範囲 ≥ スーパーセル分割数」 上位階層の多極子 10 8 allocate( wm1(:,8,8) ) > オリジナル配列 プロセス myranl 分割

レベル1



#### 上位階層の多極子



allocate( wm1(:,8,8) )



## 上位階層の多極子







上位階層の多極子







#### 上位階層の多極子



(10,10)


MPI並列化技術:データ構造 [2] 多極子

## 上位階層の多極子,通信削減の工夫

allocate( wm1(:,4,4) )

下階層のように袖部付き局所化 配列にすると、

・折り返し部分のデータを何度 も冗長に通信

もともとの配列 wm1(:,4,4) の全 要素を通信すれば十分

→ 演算部であたかも袖部にある かのようにアクセスすることで 通信を削減







- ・分子内相互作用と分子間 nonbonded 相互作用の計算, および FMM を用いた Coulomb 相互作用の計算を含む分子動力学計 算について, その並列化特性を解説した.
- ・MPI 並列性能および演算性能を向上させるデータ構造について, 座標および多極子 (下位, 上位階層べつ) に解説した.

次回は, このデータ構造を基にした 3 次元トーラスネットワーク 上でのMPI 並列化技術, および OpenMP, SIMD 並列化技術を具 体的に説明する.